

---

# 雲への投影

宝月 緋穂

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

雲への投影

### 【Nコード】

N9331U

### 【作者名】

宝月 緋穂

### 【あらすじ】

空に写す自分の大切なものは。

「…そういえばあんたいたんだっけ」

三題噺「空」「チヨコレート」「写真」で書いたSSです。

視界には空しかない。

こんな都会の中で邪魔をするものが何もなく空を見上げることが出来るのは珍しい。

いい場所を見つけることが出来た。

「うちの学校の屋上がこんなに広がったなんてな」

「…そういえばあんたいたんだっけ」

隣から聞こえて来た声に不機嫌になっとうしまう。しかたない、せっかく雲が流れていく様をのんびりと眺めていたのに邪魔をされたのだ。

「チヨコだな、チヨコ」

「何が？」

唐突に言われてもわかるはずがなく、聞き返してみる。

「雲の形だよ。ほら、あの雲。板チヨコっぽいじゃん」

彼が指を指した方を見てみると長方形に近い雲があった。

「あれを板チヨコと思うあんたの感性が分からない」

食い意地がはりすぎている。

「じゃあ、何に見えるんだ？」

「四角」

「いや、物を言えよ。物を」

「…写真」

「それも凄い答えだな」

ぱっと思いつくものというのはやはり大切な物なのだと改めて思った。

だが、そこから考えると彼の大切な物はチヨコレート。なんだか物悲しくなってきた。

都会の雲に想いを乗せた。

(後書き)

三題嚙を使って初めて書いたもので、一際短い作品です。  
女の子のざっくりした答え方が気に入ってたりします。

駄文を読んで下さりありがとうございます！

-----

別のサイトにも投稿させて頂いております。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9331u/>

---

雲への投影

2011年10月9日12時24分発行